

## もっと知ろう“陶” 22、水上栃の入の地蔵菩薩

水上栃の入の小高い丘の上に、石の屋根をしてもらった地蔵菩薩があります。なんとも素朴な菩薩様である。



地蔵堂同跡地故立之享保八卯天七月二十四日（1723年）と刻印されていますから、今から約300年程前に立てられたことになる。石の屋根が、当時の村人の素朴さ、心づかい、純粹さを表していると思います。

この頃から水上村では木食上人が活動を開始している。また、真言宗で多く用いられる五輪塔が傍らにある。このことから、木食上人が建立に関与していたかもしれません。

『ふるさと陶の今昔』では、「水上浄円寺の前身は地蔵堂（院）で、火災に会い中絶、その後、貞享2年（1685年）髓巖真徹禅師が曹洞宗の浄円寺を創建した。」と、あります。水上関屋・栃の入を見渡せる

この地が、その火災にあった地蔵堂（院）の跡地なのでしょう。

この地蔵堂は、お寺というより小さな「お堂」で、浄円寺建立前の水上村で菩薩様を祀り、お堂は葬儀・法事などにも使われたのだろう。

地蔵信仰（地蔵は地獄に落ちて苦しみにあう死者をその入り口で救済する）の地蔵菩薩を上手玉喜著の「陶町の石造物」で調べてみると、陶町内に14あり、うち7つが水上にあります。水上村が特に地蔵信仰が盛んだったことが伺われます。そういえば、水上樋の下には交通安全協会の方たちが交通の安全を祈願する地蔵菩薩が国道に面してあります。この菩薩様は2月の陶一周駅伝も見守ってくれていることでしょう。

栃の入りの地蔵菩薩の隣には八幡宮の石碑があります。八幡宮といえば武士の崇拜する神様です。市場平の武士の墓（清源さん）も地蔵菩薩ですから、関係しているかもしれません。

何ごとも神仏に頼る時代、私たちの御先祖は、子供の授かり、子供の咳止め、良縁、中気封じなども身近な路傍の仏様をお願いしたのであろう。以来、私たちには路傍のお地蔵さんの前を通ると何となく手を合わすDNAが流れています。

